

## さらなる賢人同士として

Evolution of Good Relation by True Wise Persons



牧野 尚夫\*  
Hisao Makino

明けましておめでとうございます。2024年が読者の皆様にとって素晴らしい年になる事を祈っております。

さて、(一社)日本粉体工業技術協会(以下、協会)の会長となって1年ほど経ったタイミングに依頼された巻頭言なので、(一社)粉体工学会(以下、学会)と協会との関りについて私見を述べたいと思う。

10年以上前、まだ任意団体だった学会の会長を拝命した時、協会の機関誌「粉体技術」の巻頭言執筆を要請された。そのタイトルが「賢兄賢弟として」であった。当時は学会と協会が共催事業に関する考え方の違いや、学会が協会に委託していた経理業務に対する認識の違いが有った事に加え、毎年開催していた学・協会幹部懇談会が数年ほど開催されておらず、互いに誤解が生じやすい状況だった。そこで協力関係の強化を訴えようと、学会も協会も「粉体」という家に生まれ、一人が学者に一人が実業家になった兄弟(当時、ジェンダー平等に配慮が欠けていた事ご容赦頂きたい)のようなものであり、立場が違えば考えが違うのも当然なので違いを分かりあった上で「賢兄賢弟として」前向きに協力して行きたいとの意見を述べた。幸いにも双方執行部の尽力により当時の課題は解決したが、その一方、学・協会の両者で考えて行くべき新たな課題も生じている。今は、その解決に向けた「賢い法人(すなわち賢人)同士として」の行動が必要な時期だと考えている。

協会は法人会員が主体の団体であるが、法人会員数の3分の1を上限に学識者の方々に個人会員をお願いし、学術的視点での意見を頂きつつ運営を進めている。個人会員の多くは学会において粉体工学に深く関わってきた方であるため、協会が個人会員に期待している役割については、学会と十分に意見調整をする事が必要となる。既に協会の個人会員になっている方は先刻ご承知の事と思うが、個人会員の皆様をお願いしている内容は、人材育成事業や産学連携事業、国際粉体工業展での諸事業への支援に加え、分科会のコーディネーターが重要な役割となる。協会には、粉体技術の21分野において新技術の情報収集や情報交換を行う「分科会」が在り、コーディネーターには、運営上の助言や、新技術を調査するためのご協力などをお願いしている。分科会には、粉碎、乾燥、分級など粉体を扱うために不可欠な単位操作技術をテーマにした14の単位操作型分科会と、粉体分野が更に広く発展していくための目的志向で分野を定めた7つのプロジェクト型分科会とがある。プロジェクト型分科会については旬の技術を扱うため、その分野を専門とする先生にコーディネーターをお願いする事に、あまり困難は伴っていない。一方、単位操作型分科会については、コーディネーターの選出が、今後少しずつ難しくなっていくのではないかと懸念している。粉体の操作技術は粉体を扱う上で不可欠であり、今後も維持・継承・発展して行かなければならないため、その意味で分科会としての存在意義は大きい。しかし、現在の我が国の研究開発の方向性を考えると、粉体操作技術を利用する機会が多いものの、それを研究課題の柱にするのは難しい状況にある。卑近な例として筆者は集じん分科会コーディネーターを務めてきたが、勤務先の電力中央研究所では、エネルギーを生むための微粉炭の燃焼やガス化が主な課題であり、集じんは燃焼・ガス化で発生したガスの処理を目的に研究しただけであった。研究内容も集じん全体をカバーするものではなく、限られた対象、操作条件での性能向上という視点からであった。それまでの歴代コーディネーターが集じん全般の専門家だった事を考えると、就任時は法人会員の方から違和感を持たれたのではないかと考えている。少し個人的内容に入り過ぎたが、ここで申し上げたい事は、今後は分科会テーマと専門分野が完全に合致しているとは限らない方にコーディネーターをお願いする事があるなど、学・協会の協力関係も変化してくるので、是非とも広い視点でお考え頂きたいという事である。

学会は、最新研究成果発表の場として研究者を育て学術レベルを上げる事に加え、粉体工学を体系的に整備して行くという役割も果たす必要があると思っている。一方、協会は粉体技術を各種産業に広く活かしていくための技術開発に加え、粉体技術者の育成が重要な使命である。分科会活動の充実、学会が進める最新の研究成果を実用に活かしつつ各研究分野を体系化するためにも重要であるし、新たなテーマを探索するための情報の宝庫にもなり得る。多くの学会会員の皆様に、大きな視点から分科会活動を始めとする協会の諸活動にご協力頂き、研究成果の早期実用化や新規テーマ探索への活用を通して学・協会双方のさらなる発展に繋がる事を願っている。

### (著者紹介)

1977年 京都大学工学部化学工学科卒、1979年 同大学工学研究科修士課程化学工学専攻修了。同年 電力中央研究所入所、2022年4月 同所・名誉研究アドバイザー。2011年2月より4年間、粉体工学会・会長。2019年より2年間、日本エネルギー学会・会長、2022年5月より日本粉体工業技術協会・会長。  
専門：微粉炭の燃焼・ガス化、微粒子計測、環境対策  
\* 連絡先 h-makino@zg8.so-net.ne.jp